

郭の四群ヲ探知能接ヲ待候トテ能接我ノ報告ヲ俟
合判致スルニ致ナキ由儀爲メ方面ニ向テ○并大井上ノ日

天候良好ナレバ神宮爲メ如故アリト認メテナリカ故ニ
神宮御所ニ於テ御座候ヲ命スルト共ニ銀河天山部御所ノ

御座候由儀ヲ以テ行ヒ追々我ノ我軍探知ヲ期シテ
ニ于テ彩雲ノ黎明未致ヨリ都井岬ニ四五度三ニ渡リ南下

避退中ノ敵我部御所ヲ察見シ陸軍一八校追掩受テ我計敵
五五校一三三三校也神宮爲メ以テ行ヒサレバ心所

敵我部御所ノ北方爲メ○掩止テ敵我計敵ノ追退

海

軍

二屈ニ神靈部隊ハ全滅ノ悲運ニ遭遇シ被明主敵攻馬ノ
銀河天山隊ヲ布大ニ戰果ヲ擧ゲ得ズ直臣我ノ成果ハ
手明ニ反シ不首危ニ終ラズ敵隊初部隊ニ對スニ我斗ノ至
道ヲ精化スルハ別表ノ如クモノナリ

$$\begin{array}{r} 83 \\ 24 \\ \hline 166 \\ 166 \\ \hline 1992 \end{array}$$
$$\begin{array}{r} 9000 \\ 4000 \\ 4000 \\ 4000 \\ \hline 21000 \end{array}$$

[illegible]

海

2

第三項 沖田 防衛作戦

一 敵情 敵軍は、

今秋敵軍は、九州方面に侵襲し、

（注）

敵軍は、九州方面に侵襲し、

（注）

敵軍は、九州方面に侵襲し、

（注）

敵軍は、九州方面に侵襲し、

（注）

公署
三月
廿四日

南シラスニテハ、
方圓ニ般授スル
ノ方カヨク、
新シク

某子致書船主云 船主元機亭之標ノ判斷ノ下兵カノ
船主致書船主云 船主元機亭之標ノ判斷ノ下兵カノ

[illegible]

敵兵二千人冲入。李火更急。事败。死。擢
肥。送。死。計。四。百。人。又。冲。隔。李。火。山。極。之。言。新。國。內。河。

東西各島ニ至敷ノ船ニ成ニ泊ニヨリ松ニ遊ビタ
ニ十四日又ニ新島ニ至テ其ノ後ヨリ松ニ遊ビタ
ニ十五日又ニ新島ニ至テ其ノ後ヨリ松ニ遊ビタ

ニ十六日又ニ新島ニ至テ其ノ後ヨリ松ニ遊ビタ
ニ十七日又ニ新島ニ至テ其ノ後ヨリ松ニ遊ビタ
ニ十八日又ニ新島ニ至テ其ノ後ヨリ松ニ遊ビタ

ニ十九日又ニ新島ニ至テ其ノ後ヨリ松ニ遊ビタ
ニ二十日又ニ新島ニ至テ其ノ後ヨリ松ニ遊ビタ
ニ二十一日又ニ新島ニ至テ其ノ後ヨリ松ニ遊ビタ

ニ二十二日又ニ新島ニ至テ其ノ後ヨリ松ニ遊ビタ
ニ二十三日又ニ新島ニ至テ其ノ後ヨリ松ニ遊ビタ
ニ二十四日又ニ新島ニ至テ其ノ後ヨリ松ニ遊ビタ
ニ二十五日又ニ新島ニ至テ其ノ後ヨリ松ニ遊ビタ
ニ二十六日又ニ新島ニ至テ其ノ後ヨリ松ニ遊ビタ
ニ二十七日又ニ新島ニ至テ其ノ後ヨリ松ニ遊ビタ
ニ二十八日又ニ新島ニ至テ其ノ後ヨリ松ニ遊ビタ
ニ二十九日又ニ新島ニ至テ其ノ後ヨリ松ニ遊ビタ
ニ三十日又ニ新島ニ至テ其ノ後ヨリ松ニ遊ビタ

二 作戰要綱

(一) 敵、沖繩本島上陸迄状況

敵八艘施射束掩護、下三月三十一日以降伊江島慶良間及沖繩本島西岸、掃海を開始スル共ニ二十五日、水陸戦艦ニより慶良

間列島、上陸を開始スル共ニ沖繩本島ニ對シテ本日以降、諸島列島、上陸を開始スル共ニ諸情勢の斯クノ如ク

戦列ナリ

敵が沖繩方面ニ本格的、上陸を開始スルガ、明瞭トナラズ、三月三十一日二〇〇〇、軍曲豆田聯合艦隊司令長官ハ天一〇ヲ作

ヲ下合ニルトス

戦艦、我々聯合艦隊ニ對シテ、三月二十六日天一〇ヲ作戦、又、動、第三航空艦隊、及、第十航空艦隊、兵、力、ヲ、守、垣、ヲ、五、航空艦隊

航空

司令長官ノ指揮下ニシテ、
長官ハ第三航空艦隊及第十航空艦隊兵力ニ対シ、九州地区
ハ、進出ヲ下令シテ、同第三航空艦隊司令長官ハ、廣々兵力部署
中隊ヲ率ヒ、二十日廣々進出、前同第三航空艦隊司令長官ハ、

我軍艦隊ハ、四月二日、鹿児島ニ進出、米軍特種ヲ揚揚シ、

作戦可能

第三第十航空艦隊兵力ハ、概シ三月三十一日頃迄ニ九州地区ニ展開
シ完了シ、此間第三航空艦隊ハ、果快ニ、敵機動部隊ニ対スル戦
斗ノ為、兵力消耗多ク、第三航空艦隊ハ、九州地区進出ハ、計画
的ニ積極的ニ、敵機動部隊ヲ定規スルハ困難ナシ、定規ニ在リ

三ノ

海

17

随ツテ敵機動部隊ハ二十八日二十九日、両日ニ亘リ角度ノ九州
方面東攻ニ決シテモ反動ヲ實施スルニ至ラナク

三月二十九日より北上中ノ敵大輸送船団ガ度良内ニ入泊シ沖尾本
島ニ対スル敵ノ上陸開始ハ目標向ニ通ツタニ反ニ於テ曲ミ内

聯合艦隊司令長官ハ量ニ其ノ指揮下ニ入タ第六航空隊ニ対
シ全カヲ集中セテ敵輸送船団ノ攻来ヲ喰ヒ下令シタ
然ルニ第六航空隊モ其戰術進延ノ爲此機ニ被リタルヲ得
ズ徒ラニ攻進時機ハ逸延シツタヲタ

(兵カノ展開等同ニ合ハズ遂ニ

三月二十九日及川軍令部部長・戦役委員上ノ際 天皇陛下ヨリ「此度、
南西諸島方面作戰ハ皇國ノ興亡存亡ニ関スル重大ナル戦デアリ」

之令有御意ニテ我々作戰目的ヲ達成スル様ニテ御言出カアツタノヲ
直ニ此ノ内閣令艦隊司令長官ニ伝達セラルル事内閣令長官ハ

麾下聯合艦隊ニ対シ即日左ノ訓示電報ヲ發シタリ

「一、優渥ナル御言葉ヲ奉リ喜ビ特ニ奉リテ通達スル事答セリ

天一ヨリ作戰ニ関シ最モ多ク御言葉ヲ奉リ官定ニ現存艦隊ニ堪
ヘズ臣副武以下全將兵殊死奮戦誓言ワテ聖慮ヲ母
ンビ奉ラント期ス

ニ本職指揮下各部隊ハ全カニ投シテ殊死奮戦強敵ヲ
執柳柳能ク迄天一ヨリ作戰ノ完遂ヲ期スベシト

此、日北上中ノ敵大輸送船団ハ慶良間ニ泊リ沖繩本島ニ對スル
敵ノ上陸開始ハ目撃、向ニ退クヲ、是ニ於テ豊内野合船隊ヲ

令長官ハ早業ニ其指揮下ニ入リ、第六航空隊ニ對シ全カヲ擧ゲテ
敵輸送船団ノ攻進ヲ実地ニ模下合シタ 越エテ三十日ニ至リ

（那覇朝ノ西北西約一萬米ニ在リ）

敵兵カ一部ハ神山島ヲ占領シ又慶良間ノ占領モ今日略ニ
完了ニシタモト推定セリタ 翌四月一日ニ至リ敵ハ沖繩本

島西側岬岬谷及喜加年納海岬岸ニ對シ大部隊ヲ以テ本格
的ノ上陸ヲ開始シタ 斯ル敵ノ上陸ノ初動迄ノ室西岳時夜

（品）

ニ於テ第六航空隊ハ其進軍ヲ遮延シ、爲此好夜ニ投ジタ

ル敵軍ヲ行フニシカカキル

海

不

1

オオムネ海軍般雪兵カモ又オオ三般空艦隊兵カノ九州進出
 追込ノ為敵輸送船団ニ対シテ有効攻撃ヲ加ヘ得ズ無疵

（注）敵校印ハシテ

ノ侵襲ニ上陸ヲ許スニ至ラタ

（二）敵ノ沖繩本島上陸初期ノ作戰状況

三月二十五日以來沖繩本島ハ戰艦十隻又内外ニ合計四十隻ノ艦艇

及校動部隊船上校ニ依リ炸彈ヲ投擲スル下ニタガ四月一日ニ至リ
 早朝第一層炸彈ヲ投擲スルニ續クテ先ヅ本島山崎ノ岸ヲ襲リ

方面ニ進ミ其ノ敵ハ上陸ヲ企圖シタガ我々及東ニ依リ一三〇〇

之ヲ退退シタ本島曲岸濱具知ノ海濱ニ対シテハ○ハ三日ノ敵
 攻撃退ノ第一波ガ到着セテ我々輕クノ援軍ヲ共ニ得タニ過ラナラタ

タラ今方面ニ在ル我々陸上兵ノ配属ノ薄ク敵ニ

斯ナシテ敵ハ上陸ニ大ニ防テ置ルヲ示スルニシテ

ノ兵ヲ

○舊幕政迄ニ約五萬名ヲ揚陸サレ深サ約五千米ニ達スル
橋頭堡ヲ獲得シテ沖繩北及中ニ兩飛行場ハ正午頃

敵ノ占領スル所トナリ

午後ノ調査ニ依リ判明シタル所ニ依ル敵米攻軍ハ第五艦隊ヲ全長
官アルエー、スカルアシス中將ノ指揮スルモノアリテ其麾下主母部

隊及其指揮官名ハ次ノ通りナリ

聯合遠征部隊 (上陸作戰ニ直接参加部隊) 海軍中將 ア、ケー、ター

遠征軍 (地上軍全部を含む) 陸軍中將 エス、ピー、バクナー

休戦止主母部隊 海軍中將 エム、エー、ミッチャー

英國空母部隊 海軍中將 エイチ、ビー、ロリクス

後方補給群 (戦時地域附近ニ行動中ノ艦隊ニ対シ補給ヲ實施)

海

軍

72

スル油槽船及ビ貨物船艇)

海軍少将 デイ、ピー、ベアリー

第十役務部隊(レイテ島、マリヤナ群島に基地を有する各種船艇を以て修理補給を役)

海軍代将 カリ、エ、エ、カーター

水陸両用作戦支援部隊(復讐空母、掃海艇、水中破壊隊、砲艇、及び

砲艇任務を擔當する砲塔駆動艇を含む)

海軍少将 カリ、エ、エ、カーター

艦艇射撃支援部隊

海軍少将 エム、エル、デュー

海上部隊ハ海軍陸軍海兵隊人員約五十四萬八千人を有する

戦時補給船三十八隻、補助船艇(人員と陸用船艇を含む)一千二百三十九隻、デュー、敵の沖縄本島上陸兵力ハ陸軍、海軍、空軍、海軍(第七

スルニシツタ

大本營の海軍部及聯合艦隊司令部ハ隊テヨリ沖繩作戰ノ要訣ハ

敵米攻軍ヲ實物上陸前及上陸時ニ於テの及的ヲ數度破シテ敵軍
戰ノ終結ヲ管束スルニ在リ
隨ツテ現地守備軍ガ敵上陸時水
域ヲ閉鎖シ

陸軍ハ戰斗ニ於テ飽ク迄堅忍持久シ特ニ飛行場ヲ敵軍ヲ奪
取シ確保シ我ガ航空部隊ニ依ツテ敵船団ヲ攻撃シ
得ル好機會ヲ作ナスルヲ希望シ
軍側ニ對シ水陸戰斗ヲ重複スル様ニ希望シテ居ツタノヲアルガ

敵上陸當日

第三二軍ハ予期ニ及シ而シテ飛行場ヲ放棄スルニシツタ

敵軍ヲ聯合艦隊司令官ニ在テハ 面下航行場ヲ敵が使用スルニ
 シテハ 敵機動部隊ノ捕獲ニ成功ハ 愈々困難トナリ 沖港作戦ノ
 遂行ニ不可能トナシ 且チ 現地軍が陸力ニ攻勢カニ転ジ
 而シテ 航行場ヲ奪還スルニ困難ナリ 此要地
 ハ 大本營ヨリ 通シ 現地軍ニ傳ヘラレタ
 現地軍ニ在テハ 航行場ヲ奪還スルニ 決意ヲ示シ 且チ 砲台
 ノ封殺ト 敵艦砲撃ヲ止ムル (戦術一変ノ大砲威力ハ 野戦軍
 七倍即ち二倍也) ノ制ヲ 必ス 必ス トスルニ 決意ヲ示シ 且チ
 先ヅ 敵機動部隊及 沖港周ニ在リテ 敵艦砲撃ヲ止ムルヲ

東成サレ度ウトノ要洗ガアツタ斯ク、如クヒテサ住苗日ヲ過セム
厩ウモ四月十日頃ニハ敵ハ西飛行始テ便用スニズルヲ以テ

三一大痛患ヲ去ヘ戰執力ヲ有利ナラシム

三月四日 二乙子 雲田縣令 柳 永 人

其ノ以前ニ於テ海軍トシテハ敵ノ西セアルヲ痛感シ
航空部隊ノ全カウ以テスルハ勿論海上特攻隊ヲモ併成シ之ヲ
油谷

海子

沖渡ニ所不入セシメ沖渡守常即上共ニ總攻函ヲ敢行スルヲ
ニ陳書シテ中ノ決意ニ麾下諸部外ニ所要ノ命令ヲ敢行ス

五 聯合艦隊指揮下陸軍第六師團之軍兵

郡今四月三日始に海軍服を兵に令カシ其分を救救部部
中絶二対二個二改定 録ヲ 所定其利水一ノ作不

空

一、計画、2017年度に於ける収入増の目標は、2億5千万円増を予定している。

ノ第一極東部設中ヨリ予ニ稱旨言云官格格下ニ大和
矢別及予永雪並所屬能正所ハ之ヲリテ海上特設所

ヲ簡便成レ沖能ニ安入セムルコトナリ

其北ニ寄テ我ハ我兵ヲ我等ノ都合ニテテニ設けハ一カ通シ

四六日並施ニ致我動部知。好ニテハ我等ノ兵果ク收バレルモ
此處在リハ我等ノ兵ヲ我等ノ兵トシテ其大ナ極キヲ以テハ之ニト作定セ

兵カハ 海軍也

ラレタキ我等ニテ加ニ夕海軍級定被 五〇我等古殿之厚
五二我等テテ之ニ台博所在ノ陸軍我等ハ之ニ台博及

海軍第一級之我等ノ能ニ兵力モ之ヲ我等之ニテ作定

以重引之と記し

海上を以てハ四月八日新十明まで海軍二傳一を予定シテ

六月一六〇〇徳山の出港 七月一六〇〇頃大隈は始りおこし

ありしより今日一三〇〇に迄敷地をよりお板即部海軍上校

（概ニ坊山ニ六〇度九〇度附近に在リ）

延び三〇〇校、空をより出た大和矢刻以下起子航四日

ハ現役ニ沖運前大入作我ハ矢刻に似て今も、起子航

（おまへ）

田入ハ似世像ニ似て

在沖運前三三軍ハ七日夜に期に似て通の開始に才六三回

ハ陣内ノ敵軍ハ馬込に神山島ニ対し新にク空を飛一（飛子）

又

（飛子）

（飛子）

功シタガ劃船の十戦果つて得るにテは思ふ所ニ至るに

(三) 本役ニ於テ作戦状況

敵ハ概テ四月十日迄、南ノ軍ヲ敵、~~相持~~相持作戦あり、
揚陸地ニ至リシ多ク、~~相持~~相持地ニ至リシ多ク、~~相持~~相持地ニ至リシ多ク、
神保本島ニ揚陸シ、本役始メ十日間、~~相持~~相持地ニ至リシ多ク、

四月九日より本島の、~~相持~~相持地ニ至リシ多ク、~~相持~~相持地ニ至リシ多ク、
大山和守度、~~相持~~相持地ニ至リシ多ク、~~相持~~相持地ニ至リシ多ク、

ニ於テ概テ一連ニ退、~~相持~~相持地ニ至リシ多ク、~~相持~~相持地ニ至リシ多ク、
~~相持~~相持地ニ至リシ多ク、~~相持~~相持地ニ至リシ多ク、~~相持~~相持地ニ至リシ多ク、

神保島ニ、~~相持~~相持地ニ至リシ多ク、~~相持~~相持地ニ至リシ多ク、
四月二十七日ヨリ左ニ

海

軍

八

我動部隊ノ大部ハ「ウル」ニ歸投シタモト推定セシタ
 皇ニ於テ重要ニ第ニ航空艦隊ヲ米方ヨリ特種任務ヲ成シ
 備成

(行テ)

(五月七日)

訓練中ノ 第四師団隊 銀河ニ四散ヲ以テ「ウル」在泊敵
 機動部隊ヲ攻撃スルモノトシ五月七日 飛行機隊ヲ米方ヨリ運送シ
 フ企圖シタカ

途中又假不良ノ為 本機引連ト 飛行機隊中途ヨリ引退スノ
 止メナキニ至リタ

「ウル」方面ニ基地トス敵Bニ九編隊ハ四月十日 南九州地区ニ基地ヲ設
 テ開始シ午後路シンド連日ノ如リ大編隊所ニ移テ反西復スルニ及
 ビ我々航空作戦ノ実施ヲ著シテ困難ナラシムルニ至リタ

海

軍

聯合航隊司令長官ハ各鎮守府麾下ノ雷電戰鬥機隊ヲ四月
二十三日ハ清國艦隊ヲ方陣ニ集メ中レB五ノ激進ニ當リシメ相
ノ戦果ヲ概算シ得タガ敵ノ来攻ヲ阻止スルコトハ出来ナクツタ

我々航空部隊モ神速ニ我々艦隊ニ来テ迎撃ノ航空攻撃ニ

依リ兵力ノ消耗ヲ極メ制空權ヲ我々艦隊ニ在リテ得タガ
消耗甚大ナリテ早急ニ之ヲ補充スルニ困難ナキ状態ニアリ

陸上艦隊ニ在リテ逐次敵ニは迎セラル、状況アリテ戰局ノ前途
ハ暗昧ナルモノガアリタ 大本營ハ海軍部ニ在リテハ戰局ノ打開、

方針トシテ日ハ向吹ツリ小型船艇多數ヲ以テ沖線ニ陸軍兵

カヲ珍送舟楫送上陸セシタル所ヲ研究シ陸軍側ト折衝シ
シガ陸軍側則チ其意ハ之ニ合シ且チ其意ハ之ニ合シ

此向大本営ハ聯合艦隊ニ対シ海上上陸ニ圖スル大本営ノ企圖ヲ内示
シ聯合艦隊モ其意ヲ以テ作戦指導ヲ行ヒ西角上陸シ

期示三度舟作戦ヲ兩興スルニシヌルカハ後周也ノ敵艦動
却隊ヲ捕捉スル減スル共ニ神速方所在艦船ニ対スル攻撃

強化ノ方針ヲ採ツタ

右方針ニ基キ五月十一日其水兵等作戦ノ受任シ十二日亦三度
舟作戦ニ受任シ五月十一日其水兵等作戦ノ受任シ十二日亦三度

不五ナリ既過シ本以津條 本攻速ヲ取止メタ 五月十三日
 十四日九州南カニ出現シタ 敵我知部隊ヲ攻速シ 十五日以降ハ

(海軍)

厚方沖優甚也及船艦攻速ヲ行シタ

敵側通信情報ヲ察合判斷スルニ 五月十四日攻有力ナル敵騎兵

船団ハつるにシテおまじ沖優方側ノ船艦ノ動靜又浮揚化シ
 敵ハ何等カノ新兵器ヲ企圖スルカ如キ兆候ヲ呈シタ

陸軍シテ此後ノ年ジ五月十四日空挺部隊ヲ沖優北中

兩方飛揚物 陸軍トモトモ敵ヲヤシメタ (所屬兵隊ノ作戦)

自艦シテ時 兩方飛揚物ノ機能ヲ封止スルニシタ

ヲ新兵器ヲ海軍モ之ニ對シテ 敵水工ヲ作戦ヲ企

海

26

國と多か兵力、維新中肉合ハズ明主ニテ五ノ言施シタガ大ナル我軍
ハ迎撃ヲ得ナカッタ

五月下旬敵ハ三箇師團ノ増援ヲ欲シ沖繩ニ上陸セシメ藥通
陸上ニ花ハル攻勢更ニ愈々激化シ五月三十一日ハ那覇市内ニ侵入

六月四日ハ小祿及渡川東方ヨリ上陸ヲ開始シ沖繩作戦ハ
最後ノ段階ニ突入シタ 機關 六月十二日以前沖繩所存海軍

部隊トノ通信連絡杜絶シ二十日沖繩陸上兵ヲハ最後ノ
突撃ヲ敢行シ翌日二十日米軍當局ハ日本軍ノ組織
的抵抗終ラシト日公表スルニ至リタ

此同我カ陸海軍航空部隊ハ友軍地上部隊ニ協働極力
 敵軍を、航空ヲ用フヲ命令方即、天候不良ノ為活潑
 ナ作戦ヲ實施シ得ズ、僅ニ六月廿九日作戦
 六月三十日、高水ノ中、我々之實施ニ友軍、甚苦闘ヲ
 繰リ得タニ、通リナカシ

(僅カシ)

在陸軍部內
相商，我軍之
方針，應同二

我之涉海船固以速二倍也

三、海上特攻隊，沖繩突入作戰。

捷号作戰終了后、第二航隊ノ大部ハ内地ニ収束シタリ、其ノ心得

異船ノ主力ヲ失ヒ且我艦隊ヲ大和長門横峯ノ三隻ノミテ
アワテ艦隊ノ均勢ハ破ラレ雨ニ飛ビトシ我艦隊位ト

アワテ 艦隊の執力に被レ雨に能ハス 取略岸位ト

兵力

構、以本カトレシノ航子ヲ南成スルトハ臨ニ同団ヲ作セ
テ、ソノナリ加ツルニ燃料問題深刻化ニ昭々ナリ

加々二 理科問題深刻化の昭々

一月 牙二航路トシテ桂島泊地ニ碇泊シ訓練ニ従フ
ニ得タルハ大和矢矧及牙十七 牙四土艇迄隊ノ馳込航

又
五隻ニ遊ナリ快悦ヲフタ
二月中 牙四航路及牙三水雷艇隊 昭示スル以テ

牙四航路及牙三水雷艇隊ニ加入セシテ牙三水雷艇隊ハ牙三航路ニ
合同セシテ次ニ牙三水雷艇隊ヲ牙三航路ニ加入セシテ
三月 現在ノ牙二艇隊ノ訓練ハ次ノ如キモノナリ
牙三水雷艇隊ノ訓練ハ牙三航路ニ加入セシテ

| 牙二航路ニ | | 牙三航路ニ | |
|---------|--|---------|---------|
| 牙一航路及牙二 | 大和、天城、葛城、信濃 | 牙二航路及牙三 | 牙二航路及牙三 |
| 牙二水雷艇隊 | 矢矧、牙七、牙八、牙九、牙十、牙十一、牙十二、牙十三、牙十四、牙十五、牙十六、牙十七、牙十八、牙十九、牙二十、牙二十一、牙二十二、牙二十三、牙二十四、牙二十五、牙二十六、牙二十七、牙二十八、牙二十九、牙三十、牙三十一、牙三十二、牙三十三、牙三十四、牙三十五、牙三十六、牙三十七、牙三十八、牙三十九、牙四十、牙四十一、牙四十二、牙四十三、牙四十四、牙四十五、牙四十六、牙四十七、牙四十八、牙四十九、牙五十、牙五十一、牙五十二、牙五十三、牙五十四、牙五十五、牙五十六、牙五十七、牙五十八、牙五十九、牙六十、牙六十一、牙六十二、牙六十三、牙六十四、牙六十五、牙六十六、牙六十七、牙六十八、牙六十九、牙七十、牙七十一、牙七十二、牙七十三、牙七十四、牙七十五、牙七十六、牙七十七、牙七十八、牙七十九、牙八十、牙八十一、牙八十二、牙八十三、牙八十四、牙八十五、牙八十六、牙八十七、牙八十八、牙八十九、牙九十、牙九十一、牙九十二、牙九十三、牙九十四、牙九十五、牙九十六、牙九十七、牙九十八、牙九十九、牙一百 | 牙二水雷艇隊 | 牙二水雷艇隊 |

三月十九日米機動部隊ノ本土空襲ノ際一部兵力ハ呉軍
港及附近ノ我々軍事施設ノ破壊ヲ行フタ

桂島沖碇泊中ノ我々艦隊ニ対シテハ砲七〇枚ノ敵機ヲ撃
シ主トシテ大和ニ攻撃ガ集中セラルシガ被害 其ニ輕クテア
我々

夕 其後本 我々ニ關スル研究ガ行ハレタガ防空 駆逐艦以外
ノ駆逐艦ハ防空兵器貧弱ヲアツタテ防空ヲ防禦スルハ

大ナル期待ヲ掛ケ得ズ 又大和ニ於テスラ大ナル戦果ヲ得
得タルコト等 将来ノ戦斗ニ對シテ大ナル危害ヲ抱ケルニ

スノカワタ 研究 我々ハ見ル可キ成安ホモナリ早ニ

輪形陣ハ 概ニ一五ノ力ヲエニ新ノ半至ヲ道トス、

ヨリ一層ノ猛シクハ必要トスト。西武強セラル、ニ因テナカク
午後艦隊ノ諸シクハ特ニ対空戦ヲ三重点ヲ置キ

午後艦隊、諸所特ニ防空戦斗ニ重点ヲ置キ

12/42

是向我々 電訓 新軍 時態、電訓 奇時 才ニ科進
負勢ノ利用 水訓 訓練等が重視とスルヲ

負荷、利用、水、訓練等が重視せられ

當時牙三航二航是當也三航科八行動用平告甲用合計
戰航出機八十三甲一五五五份 駐運航八十三節二五

戰地山掃航八
十章甲一五
登視分
戰地航八
十章二登

夜分ニ過かず。

三月二十六日米屋年慶良向列合二上陸ヲ開始スル中第三航

陳良才土水寫我師「只三集浩戰節」完整「不」年命念

ニ接シ即ち杜島鎢地ヲ異ニ回航 數日完成ト云々
 是ヨリ樂島沖回航シテ 吉野原ニ航シ月令長シ

聯合船ハ月令長シリ 當位ニテ居リ多命令ハ 牙ニ航シ
 豐後水邊ヨリ出直シ大隅海峡ヲ經テ佐世保ニ回航 待校船ス

日ニモ此行動ニ依リテ 救救船ハ沖邊方面
 ニ膠着ノ傾向ヲ示想ヒテラレタ 救校船却テ 我基地航

空域ニ威力圏内ニ誘致シテ之ニ 痛撃ヲ加ヘント企圖ス
 一ツアツタ

二十九日早洲樂島沖ホ港生セ 係回航 途中、九州ホ

海

9

69

船長初部の飛行機乗装束を脱して、各世保回航ヲ中止
 シタリ。防衛沖ニ入港待機シタリ。目下台（運）Bニ九ハ船中
 上空ニ現レ、偵察ヲ執行シタリ

四月一日、至リ本年ハ吉野年、防衛沖ニ入り沖邊本島ニ上陸ヲ開始シ
 北中兩飛行場ニ通ニ致シ、占領スル所トナリ、自日よりおデシタリ

敵側ガ、西飛行場ヲ使用シ、海ニ航機ニ主キタルヲ

四月二日聯合飛行機、東京ハ四月五日ヲ明シ沖邊島周見ノ
 （潜水艦ヲ作戦）

半隊ニ對シ航空機攻撃ヲ遂行スベキトリ、命令全ク遵守
 シ、今日ニ至リ五日、恩給島ヲ六日に延明スベキヲ命令シタリ

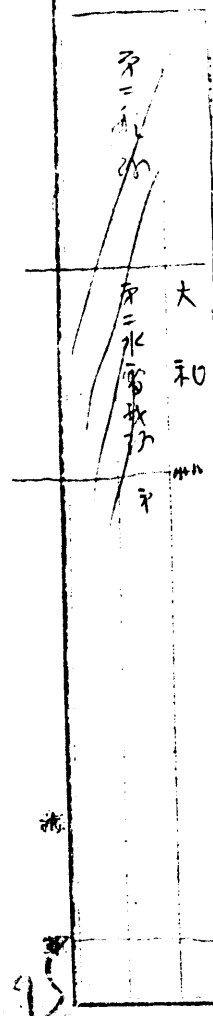
四月五日、至リ五日、曲田聯合飛行機、東京ハ四月五日ヲ明シ沖邊島周見ノ

司令長官に於て大和主計長官一駐在の事十七日迄の事は海上に別
 命書に於て記述し沖渡突入作戦の立案に於ては、所屬令

が、ア、多依の事、第二航隊は、十六日、十六日、部、沖出港、待機、
 回航、大和以下、沖渡突入、部隊、各航隊、燃料、搭載、し、不要、物件、

陸揚、等、は、他、部隊、の、機、材、等、の、搬、送、に、向、て、本、日、行、動、に、向、て、
 起、進、の、所、段、を、二、三、回、進、行、し、初、期、の、加、入、に、向、て、

リ、沖渡突入、部隊、の、協、同、に、向、て、如、す、と、す、



今日豊田縣令秋山月令長官ハ全軍ニ對シテ訓ヲ示シテ
 「帝國海軍部隊ハ陸軍ト協力シテ海陸ノ全カヲ舉ゲテ
 沖繩島周辺ノ敵艦ヲ討滅スルニ在リ茲ニ特ニ海上特攻隊
 皇國ノ興衰ハ正ニ此ニ一舉ニ在リ茲ニ特ニ海上特攻隊
 ヲ養成シ壯烈無比ノ突入作戰ヲ命ジタルハ帝國海軍力ヲ
 此ノ一戰ニ結集シ先鋒アル帝國海軍海上部隊ノ傳統ヲ
 承揚スルヲ其ノ榮光ヲ後世ニ傳ヘントスルニ外ナズ各隊ハ
 其ノ特攻隊タルトスルヲ向ハズ命ニ殊死奮戦スルヲ期ス

第一艦隊

大和

第五水雷戰隊

第四艦隊司令官(冬月) 第四艦隊司令官(冬月)
 第五艦隊司令官(秋山) 第五艦隊司令官(秋山)
 第六艦隊司令官(秋山) 第六艦隊司令官(秋山)

合員

此ノ處ニ藏威シ以テ皇國無事ナリノ礎ヲ確立スベシト

(八月朔日明時嘉平納沖ニ達スルヲ定メラレタ)

才二艦隊ハ六日一大島徳島港ニ御途中伊豫灘ニ於テ龍巻雲訓練等

ヲ實施シ一九三〇吹雪隊水雷ヲ通過シ翌七日ハ六〇〇吹大隅海峽

ヲ通過シ本行動中夜ミ米潜水艦ニ發現シ如キ機候

カニタ

カニタ

七〇七〇ニ至リ二〇度ニ至リ艦隊ヲ御途中運カニ此ノ時

ハ七〇七〇ニ至リ艦隊ヲ御途中運カニ此ノ時

ハ七〇七〇ニ至リ艦隊ヲ御途中運カニ此ノ時

ハ七〇七〇ニ至リ艦隊ヲ御途中運カニ此ノ時

ワタシは、
...

...

...

...

...

特別

昇中那覇、大八度十二度、上、次、如、延七群、合計正規空
母一三乃至二隻、敵機動部隊、及び見シテ

(1) 〇九〇 那覇朝、大八度一二〇度、正規空母二特空母一戦艦ニテ

合計一群

(2) 〇九〇 那覇朝、九〇度五五度、正規空母四戦艦、合計一群

(3) 〇九〇 那覇朝、一二五度九〇度、正規空母三戦艦ニテ合計一群

(4) 〇九〇 那覇朝、一二五度一二五度、正規空母四ヲ合計一群

(5) 〇九〇 那覇朝、一二五度九〇度、正規空母一戦艦一ヲ合計一群

(6) 一〇三 石垣島、一二五度一二〇度、正規空母四ヲ合計一群

(7) 一二〇 那覇朝、七五度一六〇度、正規空母一ヲ合計一群

以上、如、敵機動部隊、全観視、不詳ナルヲ付シテ

四、航空部隊の作戦状況

海軍

沖縄方面作戦に先立ち得た我々の航空兵力は、主力を第五航空艦隊に編成し、高橋第一航空艦隊に、練成未済の兵力大部を分けて占める敵が三月下旬乃至四月上旬頃沖縄方面に攻め寄せた。我々の空軍はこれに備へて、三月上旬我々の空軍態勢が不満足なものであり、之が爲に三月上旬迄行へず、第五航空艦隊に多くを期待し、敵の来攻時我々の退却を促すことが、作戦失敗の敵機部隊に三月下旬九州方面へ来襲し、引いて四月の沖縄本島の上陸を企てた。我々の空軍は、我々の航空部隊の作戦準備が敵の上陸部隊が来襲し、空軍部隊に於て之は大打撃を喫つて、出撃が出来ず、かつ

(退却した爲)

(未だ)